

日本女子体育協会および健康の女性会発行機関誌 『婦人と体育』『健康の女性』（1924-1930年）における研究の特徴

The characteristics of research about “Woman and Physical Education” and “Healthy Woman” (1924-1930) published by Japanese Association of Women’s Physical Education and Association of Healthy Woman

キーワード：藤村トヨ、東京女子体育大学、研究

Keywords: Fujimura Toyo, Tokyo Women’s College of Physical Education, Research

藤坂 由美子

FUJISAKA Yumiko

及川 佑介

OIKAWA Yusuke

掛水 通子*

KAKEMIZU Michiko

Abstract

This study aims to make clear the definition of “research”, through the investigation of 30 volumes of “Woman and Physical Education” and “Healthy Woman” bulletins published by the Japanese Association of Women’s Physical Education and Association of Healthy Woman. These volumes are reprinted and book bound by Tokyo Women’s College of Physical Education, and possessed at its library.

The findings were as follows.

These volumes reflected the thoughts of Fujimura Toyo. She was the president of this institution. Fujimura had the belief that research was the way to accumulate results and facts without concluding immediately. In addition, it was important to search for scientific evidence on subjects relating to one’s daily life. Many types of exercises, gymnastics, sports, music and methods of education and physical education were contained in the articles of “Woman and Physical Education” and “Healthy Woman”. These articles were the results of the “research” through the education and practices of Fujimura Toyo and other teachers.

*掛水通子（東京女子体育大学名誉教授）

I 緒言

東京女子体育大学・東京女子体育短期大学(以下、「本学」と略す)は、2022年をもって創立120年を迎える。1902年5月に創設された私立東京女子体操学校(同年11月に私立東京女子体操音楽学校と改称)(以下、「音体」と略す)が前身であり、同校は日本初の女子体育教師養成学校、女子体育研究機関であったことは広く知られている。同校第4代校長として創設以来の経営不振から学校を再興させるとともに、日本の女子体育の黎明期に多くの女子体育教師を全国に輩出し、女子体育の普及に大きく貢献したのは藤村トヨである。

また、藤村トヨは研究者でもあった。女子に適した運動法の開発をはじめ、女子の体格や姿勢、服装の改良、女子の生き方に至るまで、科学的な視点から理想を追求し、日本における女子体育研究の道を開いた。その研究の成果を公表し、女子体育振興に向けて啓蒙的な役割を果たすため、藤村トヨは1924年、同校内に「日本女子体育協会」を設立し、自ら会長となった。この協会の機関誌として発行されたのが『婦人と体育』であり、翌年には雑誌名を『健康の女性』と改めた。「日本女子体育協会」では、全国から一般会員を募り、日本女性の体育奨励、体育研究、精神向上を目的とし¹⁾、機関誌の発行を通じて全国に情報を発信した。同協会は1925年に「健康の女性会」と改称し、機関誌による広報活動の継続と、体操や遊戯の講習会なども実施した。

このように積極的な女子体育の実践、研究と啓蒙活動の功績により、藤村トヨは日本の女子体育の先覚者として歴史的に高く評価され、彼女に関する研究はこれまで数多く見られる。

藤村トヨの生涯と、日本の女子体育の発展に寄与した業績については幾つかの研究がある。代表的な研究者には、近代日本女子体育史を先駆的な女子体育家の功績から概観した上沼²⁾、女子体育教師史の視点から言及した掛水³⁾がいる。これらの研究では、藤村トヨの研究・教育活動や女子体育教員養成に果たした役割について論述されているが、機関誌『婦人と体育』および『健康の女性』の分析には

至っていない。また、本学の100年の歴史を総括した『藤村学園100年のあゆみ』⁴⁾には音体の再興者として藤村トヨの教育理念や活動、研究成果などが詳述されている。ここに本研究の主史料である『婦人と体育』『健康の女性』も紹介されているが、各号掲載の記事までは分析されていない。一方、本学の「藤村トヨ研究」は、本学教員によって独自に行われてきた。その中で掛水ら14名の共同研究は、本学女子体育研究所所報に研究成果が集録されている⁵⁾。その研究では、藤村トヨの創案した自然運動や禅による女子教育の実態解明のため『婦人と体育』『健康の女性』掲載の記事が参考とされた。しかし、本誌の記事の全体像には迫れていない。

『婦人と体育』『健康の女性』に始まる本学関連の機関誌における記事分類を試みた研究としては、宮崎の報告⁶⁾が見られる。しかし、分類した後の考察は論じられていない。

このように、機関誌の記事内容を対象に調査・分析した研究は、管見の限りないと言える。したがって、戦前期の体育・スポーツにおける「研究」に焦点を当てた論考も十分ではないと考えられる。そこで、本研究では藤村トヨが再興し、日本の女子体育の研究と実践の先駆けとなった「私立東京女子体操音楽学校」内設置の「日本女子体育協会」と「健康の女性会」における研究実態を明らかにするため、機関誌『婦人と体育』『健康の女性』に掲載された記事を手がかりに、当時の「研究」に対する考え方や、研究対象、研究内容について調査することを目的とする。

II 研究の方法

『婦人と体育』(1924年)を継承した『健康の女性』は第1巻第1号(1925年)から第7巻第5号(1930年)までが原則として月に1回、通号として発行されたとみられ、第7巻第5号の後には第9回極東オリンピック大会号が号外として発行されている。創刊から最終号までを所蔵している機関は確認できず、本学附属図書館が最も多くの号を所蔵していると言える。残念ながら本学でも通号全てを確認することはできなかったが、本学では比較的保存状態の良いものを復

刻・製本し、附属図書館地下書庫で閲覧できる。

本研究では、復刻・製本された初代『婦人と体育』第1巻3号(1924年)と、『健康の女性』第2巻2号～第10号(1926年)、第4巻第1号～第10号(1927年)、第5巻第1号および記念号(1928年)、そして組織名が「健康の女性会」に改称されて発行された『健康の女性』第2号～第4号(1929年:この年に発行された機関誌は巻を継承せず)、第7巻第2号～第5号、第9回極東オリンピック大会号(1930年)までの計30号(冊)を調査の対象とした。すべての号に掲載されている論説・研究・解説に該当する記事を確認し、記事のタイトル、執筆者の所属、記事の内容分類を一覧にすることにより、『婦人と体育』『健康の女性』という機関誌の特徴を捉えることを試みた。

なお、機関誌には会員や卒業生、教員等の自由作文や雑感、学校規則や教員紹介なども掲載されている。本研究では、これらの自由作文・雑感・規則や教員の紹介は研究を意図したものではないとして分析の対象から除外した。

III 日本女子体育協会および健康の女性会機関誌『婦人と体育』『健康の女性』の発行の目的

『健康の女性』第4号(1929年12月5日発行)には「健康の女性会の沿革」⁷⁾が簡潔に紹介されている。その記事によれば、健康の女性会の前身は1913年に当時の教育界や体育界の名家および権威者の後援参加の下に設立された「日本女子体育奨励会」であるとされている。会の発足後、次第に女子体育が普及したことにより、「奨励」と銘打つ必要がなくなり、また男子同様に女子のスポーツにも世界的な組織である世界女子体育連盟が誕生した。この世界的組織に日本国として加入することが将来的に必要となること、また女子選手をオリンピック大会などの世界大会に派遣する中心機関が必要となることを予期して「日本女子体育奨励会」は「日本女子体育協会」と改称した。しかし、その後間もなく関東大震災が発生し、また同会主幹の荒木直範が研究のために二度の外遊をして不在となったことにより、会は有名無実化して

いった。その間に日本国内では「大阪女子スポーツ連盟」が組織され、先に世界女子体育協会^{協会}に加入したため、「日本女子体育協会」の最大の目的は絶たれてしまった。存在の主旨根源を失った「日本女子体育協会」は、少なくとも一事業として機関誌『婦人と体育』を発行することとした。これが初代『婦人と体育』の創刊経緯である。

国内では女子体育の奨励とともにその形式的な進歩が見られるようになるが、真の体育の目的は実質的な健康であることが叫ばれるようになる。この時勢を受けて、「日本女子体育協会」は「健康の女性会」と改称した。そして、藤村トヨが引き続き会長を務めた。「健康の女性会」は日本の女性を健康に導くことを主旨として、身体的・精神的両面から理論的実際の進歩を図ることをねらいとした。身体的方面では体格・姿勢・体質の研究と衛生思想を根柢として、健康運動の実際を指導すること、精神的方面では教育・心理・理論をもととして、その神髄を徹底するために禅を用いることをした。これらの目的を達成するための一事業として、毎月1回の機関誌『健康の女性』の発行と頒布が位置づけられた。

このような『健康の女性』発刊の経緯を踏まえれば、本誌に掲載された記事は、「健康の女性会」の設立主旨に沿った形で、会長に就任した藤村トヨの意向を反映しながら編集されたと捉えることができる。

IV 藤村トヨが考える「研究」とは

『健康の女性』各号の目次や記事の中では、藤村トヨが「研究」という語を頻繁に使用している。「研究」について述べている記事を取り上げ、その文脈から、藤村トヨが「研究」という行為をどのように考えていたのかを捉えてみたい。

藤村トヨが研究とは何かを直接論じている記事として、『健康の女性』第7巻第3号の巻頭言に掲載された「研究は一步より」がある。そこで、記事の一部を以下に抜粋する。

(前略) 茲に述べんとする処の一步は(中略) 凡ての研究に於ける出発の一步である。

- 一、研究は一步より確かに足を踏しめて誤りのない研究をせよとも解釈が出来ます。
- 二、研究は一步一步が積み重ねて大なるものとなる即ち俗に塵も積れば山となるという意にも解される。
- 三、研究は一步一步に其成功を見よとも解される。
- 四、研究は脚下より即ち手近い所よりという即ち易より難に入れとも解される。

(中略)

元来人が研究を大変困難なものに考えおっくうがるのは余りに其要件を一步でなく千歩も万歩も多くに考えすぎる。

又一步一步に成功を見んと余りに欲ばり過ぎる。

又一步が大切であると余りに大事をとり恐れ過ぎる。

又脚下よりといいながら遠方に眼を着け過ぎる。

其れが為め成功を急いだり又失望したり、倦きたり、一時に苦んだりして畢竟研究は困難な仕事のように考えるようになる。

私は常に事を能く解決せんとするときは一步でもよい立派な成功はせずとも一步でも善に向えばよいと、考えるので私は常に大海の水を椀でかえるが如しであつてもよい、善いと思えば其れを実行し又考えればよいという位で余りにあせらないし無理に理屈をつけないのである。其れが為めに私は一つのことを考え初めたらば何時迄も其れは倦きないで、又捨てないので、其れが却て一步が一步を作り最初考えたよりも容易に十年も二十年もする内には意外なる処で成功することがある。(後略)⁸⁾

以上の記述から、藤村トヨの研究に対する考え方が窺える。藤村トヨは、研究というのは、身近な問題意識から、まず「一步」を踏み出し、結論を急ぐことなく地道に一つ一つの結果や事実を積み上げていくことが大事であると主張している。また、当時の研究者らは、大きな成功を意識して欲を出しすぎたり、短期間で成果が出なければ失望したり飽きたりする人が少なくなかった。藤村トヨは、そのような現状を問題視して、この記事を掲載したと考えられる。

研究成果は『婦人と体育』『健康の女性』により広く国内に公表され、多くの体育指導者や研究者、音体の卒業生らに参考にされた。彼女の研究に対する自

信は、以下のような記述からも見て取れる。

私は過去三十年間日本の体育殊に女子の体育について研究を致しました、又二十五年間女子体操音楽学校を独力経営して中等体操教員を養成致しました、その間得たる所の研究の結果は健康の女性で発表を怠らなかつた積りです、然るに昨年欧州に於ける体育を見学致しまして、私が日本の体育に就いて従来得たる所の自信を更に強うすることを得ました、それ等の発表を以て聊か御参考に供したいと存じます。⁹⁾

このように、機関誌『健康の女性』には常に藤村トヨの研究の成果が公表されていたことがわかる。さらに、藤村トヨは1928年から3度にわたり単身で渡欧し、ヨーロッパにおける体育視察を経て、これまでの研究の成否を確認する機会を得た。国内の知見だけで満足せず、国外にも研究の視野を広げた藤村トヨは、当時においては先覚的な研究者であつたとも言えよう。

以上のことを踏まえると、『健康の女性』に掲載された記事は、藤村トヨをはじめとした研究者・教育者らの研究成果を知る重要な手がかりとなると言える。

表1 『婦人と体育』『健康の女性』掲載の論説・研究・指導・解説に関する記事および執筆者一覧

| 巻・号 | 発行年月日 | 目次区分 | 記事タイトル | 執筆者名 | 分野 |
|-------------------------------|-------------------|-------------|--|--------------------|-----------|
| 『婦人と体育』 日本女子体育協会発行 1巻3号 | 1924 (T13). 9. 12 | | 日本女子の体格姿勢及体質 (其三) | 藤村トヨ* | 体格・姿勢 |
| | | | 女子の水泳 (其三) | 大谷武一 | 運動法 (水泳) |
| | | | 日本歴代女装の変遷 (其三) | 和田千吉 | 服装 |
| | | | 婦人の競技指導 (其三) 走高跳 (其三) | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| | | | 体操科教材研究発表の序文 | 二宮文右衛門* | 体操教材 |
| | | プレーグラウンドボール | ピーオー生 | 運動法 (遊戯) | |
| 『健康の女性』 日本女子体育協会発行 2巻2号 | 1926 (T15). 2. 5 | | 私校に曹洞宗教義を加味したる動機 | 藤村トヨ* | 仏教・禪 |
| | | | ダンスの起源と分派 | 荒木直範* | ダンス (理論) |
| | | | 体育問答 (小学校の生徒に偏平足が多くて困りますが其矯正法を教えてください) | 藤村トヨ*・長野県一小 学教員 | 体格・姿勢 |
| | | | (寒胃とは如何なる病ですか又其治療法は如何) | 半田医学士*・福島県 結城京子 | 医学 |
| | | | (頭痛は如何なる場合に起こりますか) | 半田医学士*・山口県 平河澄子 | 医学 |
| | | | 修身二十訓 | 田中盛鑑* | 修身 |
| | | | 現代女子体育批判 (二) | 伊達洋造* | 女子体育 |
| | | | 歩行につきて | 藤村トヨ* | 運動法 (歩行) |
| | | | 音楽挿話 | KA生 | 音楽 |
| | | | ヴィクトリア朝に於ける園秀小説家に就て | アイ、ワイ生 | 文学 |
| 2巻3号 | 1926 (T15). 3. 5 | | 私校に曹洞宗教義を加味したる理由 (二) | 藤村トヨ* | 仏教・禪 |
| | | | 競技運動の心理学的考察 | 荒木直範* | 心理学 |
| | | | 私共の理想の置き所 (下) | 岩上行坡* | 教育論 |
| | | | 胡蝶 | 伊澤エイ* | 運動法 (ダンス) |
| | | | 体育問答 (学生の携帯品の持ち方について御意見を伺いたい) | 藤村トヨ*・福岡県 山城どり子 | 体格・姿勢 |
| | | | 心身の健康とは | 森田正馬* | 健康論 |
| | 歩行につきて (二) | 藤村トヨ* | 運動法 (歩行) | | |
| | モーニング | 不明 | 運動法 (伴奏つき ダンス) | | |
| 2巻4号 | 1926 (T15). 4. 5 | | 女子の多言と巧言令色 (一) | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | | ウーメンズ バスケット ボール | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| | | | 禪家の寄宿舎 | 田中盛鑑* | 仏教・禪 |
| | | | フォークダンス | 荒木直範* | 運動法 (ダンス) |
| | | | 心身の健康とは | 森田正馬* | 健康論 |
| | 歩行につきて (三) | 藤村トヨ* | 運動法 (歩行) | | |
| 2巻5号 | 1926 (T15). 6. 5 | 巻頭言 | 美の殿堂へ | 安田* | 健康論 |
| | | 論説 | 健康の秘訣 (一) | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 論説 | 私の女子競技観 | 上田精一* | 体育論 |
| | | 論説 | 黎明の野に立ちて | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 研究 | 観世音菩薩 | 後藤大用 | 仏教・禪 |
| | | 研究 | 現代婦人と靴 | 廣井家太 | 服装 (体型) |
| | | 研究 | 「バック使用の跳躍運動」 | 本間茂雄* | 運動法 (体操) |
| | | 指導 | ウーメンズ、バスケットボール | 富田彦二郎* | 運動法 (バスケ) |
| | | 指導 | 女子の短距離指導 | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| | | | | | |
| 2巻6号 | 1926 (T15). 7. 5 | 巻頭言 | 改正体操要目の生るるの日!! | 安田* | 体操 |
| | | 主張 | 女子よ泳げ。 | 大谷武一 | 女子体育 |
| | | 論説 | 健康の秘訣 (二) | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 論説 | 夏季に於ける婦人の健康増進法としての水泳 | 下間芳克 | 女子体育 |
| | | 論説 | 競技会の尊厳!! | 安田弘嗣* | 競技 (理論) |
| | | 研究 | 観世音菩薩 (二) | 後藤大用 | 仏教・禪 |
| | | 研究 | 現代婦人と靴 (二) | 廣井家太 | 服装 (体型) |
| | | 研究 | 「バック」使用の跳躍運動 | 本間茂雄* | 運動法 (体操) |
| | | 指導 | 女子と水泳 | 藤村トヨ* | 運動法 (水泳) |
| | | 指導 | 水泳初心者の教授法。 | 海後勝雄 | 運動法 (水泳) |
| 2巻7号 | 1926 (T15). 8. 5 | 巻頭言 | 生命力!! | 不明 | 教育論 |
| | | 論説 | 多辨巧言令色 | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 論説 | 夏季に於ける婦人の健康増進法としての水泳 (二) | 下間芳克 | 女子体育 |
| | | 研究 | 歩行につきて | 藤村トヨ* | 運動法 (歩行) |
| | | 研究 | 人類の三つのタイプ | 廣井家太 | 生物学 |

| | | | | | |
|-------|------------------|----|---------------------------------------|---------|-----------|
| | | 指導 | ドッジボールの遊戯 | 中島海 | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | ブロックボール (Block Ball) | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | 水泳初心者の教授法 (二) | 海後勝雄 | 運動法 (水泳) |
| 2巻8号 | 1926(T15). 9. 5 | 主張 | 女子よ醒めよ | 大谷武一 | 女子体育 |
| | | 論説 | 若き女流体育家と服装 | 玄洋生 | 服装 |
| | | 論説 | 文化の建設へ!! | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 研究 | 棍棒体操法 (EXERCISES WITH CLUBS.) | 手島儀太郎 | 運動法 (体操) |
| | | 研究 | 短距離競走 | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| | | 研究 | 課外運動の研究 | 吉井甚右衛門* | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | ドッジボールの遊戯 (二) | 中島海 | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | ウーマンス、バスケットボール (Womens Basket Ball.) | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | バスケットボール投 | 荒崎 新 | 運動法 (遊戯) |
| 2巻9号 | 1926(T15). 10. 5 | 主張 | 三十年後を目前として | 大谷武一 | 体育論 |
| | | 論説 | 強く歩め | 二宮文右衛門* | 教育論 |
| | | 論説 | 父兄の立場から | 小山長助 | 体育論 |
| | | 研究 | 棍棒体操法 (続) | 手島儀太郎 | 運動法 (体操) |
| | | 研究 | 現代婦人と腹部の下垂 | 廣井家太 | 体格・姿勢 |
| | | 研究 | 肩胛筋の肝要なる理由に就いて | 下間芳克 | 運動生理 |
| | | 研究 | トラックの作り方 | 吉井甚右衛門* | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 諸種のボール遊戯 | 中島海 | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | 短距離競走 | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| 2巻10号 | 1926(T15). 11. 5 | 主張 | 主先づ處業心を去れ | 大谷武一 | 教育論 |
| | | 論説 | 小学校時代の女児のおしゃべり | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 論説 | 美は女子の生命 | 佐々木等 | 体格・姿勢 |
| | | 研究 | 肩胛筋の肝要なる理由に就いて | 下間芳克 | 運動生理 |
| | | 研究 | 棍棒応用体操 | 手島儀太郎 | 運動法 (体操) |
| | | 研究 | トラックの作り方 | 吉井甚右衛門* | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 中距離競走 | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 競争遊技としてのリレーレース | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | 軟式庭球規則解説 | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| 4巻1号 | 1927(S2). 1. 5 | 主張 | 美人に対する思想の変遷 | 大谷武一 | 体格・姿勢 |
| | | 論説 | 健康の秘訣 (三) | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 論説 | 女性のほこり | KM生 | 女性論 |
| | | 研究 | 現代人と肥満 | 廣井家太 | 健康論 |
| | | 研究 | 女子の解放と女子体育 | 富田彦二郎* | 女子体育 |
| | | 指導 | 諸種のボール遊戯 | 中島海 | 運動法 (遊戯) |
| | | 指導 | 体操に於ける運動の種類と教授の段階 | 下津屋俊夫 | 運動法 (体操) |
| | | 指導 | キャプテン バスケット ボール (Captain Basket Ball) | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| 4巻2号 | 1927(S2). 2. 5 | 主張 | 理想の女性 | 大谷武一 | 女性論 |
| | | 論説 | 健康の秘訣 | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 論説 | 理想の表現 | 二宮文右衛門* | 女性論 |
| | | 論説 | 丁卯の迎新 | 田中靈鑑* | 仏教・禅 |
| | | 論説 | 微笑 | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 指導 | 体操に於ける運動の種類と教授の段階 (二) | 下津屋俊夫 | 運動法 (体操) |
| | | 指導 | 走幅跳 (Running Broad Jump.) (其二) | AS生 | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 二羽の蝶 | 伊澤エイ* | 運動法 (ダンス) |
| | | 指導 | 軟式庭球規則解説 (其二) | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| | | 指導 | 遊戯とは何ぞや (カーティス 元原利一訳) | 元原利一 訳 | 運動法 (遊戯) |
| 4巻3号 | 1927(S2). 3. 5 | 主張 | 婦人の体格と男子の幸福 | 大谷武一 | 体格・姿勢 |
| | | 論説 | 女子の多辨と巧言令色 (三) | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 論説 | 仏教と教育 | 後藤大用 | 仏教・禅 |
| | | 論説 | 女子ティームゲームスの対抗競技について | 富田彦二郎* | 運動法 (遊戯) |
| | | 研究 | 健康の秘訣 | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 研究 | 肩胛筋の肝要なる理由に就いて | 下間芳克 | 運動生理 |
| | | 研究 | 遊戯とは何ぞや (カーティス 元原利一訳) | 本原利一 訳 | 運動法 (遊戯) |
| | | 研究 | リレーゾーンの作り方 | 吉井甚右衛門* | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 体操に於ける運動の種類と教授の段階 (三) | 下津屋俊夫 | 運動法 (体操) |
| 4巻4号 | 1927(S2). 4. 5 | 主張 | 新体育者に望む | 二宮文右衛門* | 体育論 |
| | | 論説 | 女子の多辨と巧言令色 (四) | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 研究 | 健康の秘訣 (六) | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 研究 | 肩胛筋の肝要なる理由に就いて | 下間芳克 | 運動生理 |

| | | | | | |
|-------|-----------------|------|--|-----------------|--------------|
| | | 研究 | 遊戯とは何ぞや (カーティス 元原利一訳) | 本原利一 訳 | 運動法 (遊戯) |
| | | 研究 | リレーゾーンの作り方 | 吉井菟右衛門* | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 走幅跳 (Running Broad Jump.) | RE生 | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 第三章 長距離競走法 | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| 4巻5号 | 1927(S2). 5. 5 | 主張 | 新時代の女性へ!! | 二宮文右衛門* | 女性論 |
| | | 論説 | 礼儀と愛語を尊重せよ | 新井石禪 | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 理想に生きよ | 安田弘嗣* | 教育論 |
| | | 研究 | 競技場の設計 | ガビン、ハズン | 運動法 (陸上) |
| | | 研究 | 肩胛筋の肝要なる理由に就いて | 下間芳克 | 運動生理 |
| | | 指導 | 軟式庭球規則解説 (その三) | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| 4巻6号 | 1927(S2). 6. 5 | 主張 | 無題 | 二宮文右衛門* | 教育論 |
| | | 論説 | 正信と迷信 | 新井石禪 | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 女子の多辨と巧言令色 (五) | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 論説 | 体育の振興と女性 | 佐々木等 | 女子体育 |
| | | 論説 | 調身と調心 (座禅の用意) (其一) | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 海に行け | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 研究 | 筋肉収縮作用の秘密 | マッケンジー原著 廣井家太抄訳 | 運動生理 |
| | | 指導 | ポップ、ステップ、アンドジャンプ。(Hop. Step and jump.) 其の一 | SA生 | 運動法 (陸上) |
| | | 指導 | 女子の水泳に就いて | 鶴岡英吉 | 運動法 (水泳) |
| | | 指導 | 軟式庭球規則解説 (其ノ四) | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| 4巻7号 | 1927(S2). 7. 5 | 主張 | 酷熱と闘へ | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 論説 | 正信と迷信 (二) | 新井石禪 | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 調身と調心 (座禅の用意) (其二) | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| | | 研究 | 運動の技術的方面に就て | 本間茂雄* | 体育論 |
| | | 研究 | 学校ダンスの進むべき道程 | 朝輝記太留 | 体育論 |
| | | 指導 | ポップ、ステップ、アンドジャンプ。(Hop. Step and jump.) | 安田弘嗣* | 運動法 (陸上) |
| 4巻8号 | 1927(S2). 10. 5 | (無題) | 主張 (無題) | 二宮文右衛門* | 体育論 |
| | | 主張 | 欧米視察の決行するにあたりて | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | 論説 | 女子と巧言令色 (承前) | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | 研究 | 機械としての身体 (The Body as a Machine) | 廣井家太 | 身体論 |
| | | 研究 | 軟式庭球規則解説 (其 五) | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| | | 指導 | ダンスー遊びませぬ | 伊澤エイ* | 運動法 (ダンス) |
| | | 指導 | 走高跳 | TK生 | 運動法 (陸上) |
| 4巻9号 | 1927(S2). 11. 5 | 主張 | 主張 (無題) | 安田弘嗣* | 体育論 |
| | | 論説 | 修養上より見たる人格の三階級 | 新井石禪 | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 社会体育 | 上田精一* | 社会体育 |
| | | 論説 | 理想と目標とを立てよ | 本間茂雄* | 教育論 |
| | | 研究 | 機械としての身体 (二) | 廣井家太 | 身体論 |
| | | 指導 | 椰子の実 | 赤間雅彦 | 運動法 (ダンス) |
| | | 指導 | バスケットボールの基本的練習法 | 小口爲之助 | 運動法 (バスケ) |
| | | 指導 | 走高跳 (二) | TK生 | 運動法 (陸上) |
| 4巻10号 | 1927(S2). 12. 5 | (無題) | 主張 (無題) | 安田弘嗣* | 女子体育 |
| | | 主張 | 私の洋行は数分時に決した | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | 論説 | 女子体育者の爲めに | 安田弘嗣* | 女子体育 |
| | | 研究 | ドクター・アルトロックの運動哲学 (一) | 森澤次郎* | 体育哲学 |
| | | 研究 | 軟式庭球規則解説 (其六) | SCJ生 | 運動法 (テニス) |
| | | 指導 | バスケットボールの基本的練習法 (二) | 小口爲之助 | 運動法 (バスケ) |
| 5巻1号 | 1928(S3). 1. 5 | (無題) | 百尺竿頭一進一退 | 新井石禪 | 仏教・禪 |
| | | (無題) | 明治三十六年迄の体育は日本式 (坪井式) であった | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | 論説 | 若き女子体育指導者諸娘よ | 上田精一* | 女子体育 |
| | | 研究 | 整体術について | 片山光夫 | 健康論 |
| | | 指導 | ア式フットボール | 太田生 | 運動法 (フットボール) |
| 記念号 | 1928(S3). 9. 28 | 巻頭言 | (無題) ※藤村校長渡米を激励 | 不明 | 女子体育 |
| | | 論説 | 何故にスウェーデン式体操が万能でないか (健康の女性第五巻第一号第二号につづく) | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | 論説 | 臍舌は機なるかな | 大谷武一 | 教育論 |
| | | 論説 | 人間生活の目的 | 安藤環中* | 教育論 |
| | | 論説 | 観世音菩薩の化現か | 岩上行城* | 仏教・禪 |
| | | 論説 | 自己の光明を發揮せよ | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| | | 指導 | 我が校に於ける排籃球の指導法 | 高橋平治 | 運動法 (球技) |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--------------------------------|------|-------------------------|----------------|---------------|-------|------|
| 『健康の女性』 健康の女性会発行 第2号 | S4. 10. 1 (1929) | 巻頭言 | 如何にして心身一致の健康を図るべきか | 藤村トヨ* | 教育論 | | |
| | | 精神欄 | 垂示 | 水野虎溪 | 仏教・禪 | | |
| | | | 思量と行持 | 岩上行坡* | 仏教・禪 | | |
| | | | 人間最上位 | 江川太禪 | 仏教・禪 | | |
| | | 身体欄 | 仏教概論 | 岩堀榮秀 | 仏教・禪 | | |
| | | | 従容録講話 | 安藤環中* | 仏教・禪 | | |
| | | | 日本の体操遊戯を如何に改良すべきか | 藤村トヨ* | 体育論 | | |
| | | 衛生欄 | 弓術と弓道 (二) | 長谷部筋泉 | 運動法 (武道) | | |
| | | | 独逸体操の特徴 (一) | 藤村トヨ* | 体操 | | |
| | | | 体格姿勢及び体質の研究 | 藤村トヨ* | 体格・姿勢 | | |
| | | 音楽欄 | 体育の胸廓の形態に及ぼす影響に就て | 半田 勇* | 生理学 | | |
| | | | 秋の衛生 (九月五日母の会講演速記) | 藤村トヨ* | 衛生論 | | |
| | | | 衛生問答 (皮膚の鍛錬) (冷水摩擦に就きて) | 藤村トヨ*・卒業生 | 衛生論 | | |
| | | 第3号 | 1929 (S4). 11. 13 | 巻頭言 | 生活の要領 | 藤村トヨ* | 教育論 |
| | | | | 精神欄 | 碧巖録提唱 | 水野虎溪 | 仏教・禪 |
| 普勸生禪儀 | 巖尾來尚 | | | | 仏教・禪 | | |
| 仏教概論 | 岩堀榮秀 | | | | 仏教・禪 | | |
| 身体欄 | 永平元禪師清規 講議 | | | 田中靈鑑* | 仏教・禪 | | |
| | 従容録講話 | | | 安藤環中* | 仏教・禪 | | |
| | 精神的方面より見たるリズム、 | | | 森田正馬* | 体育論 | | |
| 衛生欄 | 体格及姿勢 (二) | | | 藤村トヨ* | 体格・姿勢 | | |
| | 弓術と弓道 (三) | | | 長谷部筋泉 | 運動法 (武道) | | |
| | 独逸体操の特徴 緩やかな運動 (Lockerung) (二) | | | 藤村トヨ* | 体操 | | |
| 音楽欄 | 健康体操 (一) | | | 不明 | 体操 | | |
| | 体育の胸廓の形態に及ぼす影響に就て | | | 半田 勇* | 生理学 | | |
| | 衛生問答 (学生の携帯品を如何に携帯せしむるがよきか) | | | 藤村トヨ*・ 亀尾タケ | 衛生論 | | |
| 会員相互研究発表欄 | 遊戯菊 | | | A・R合作 | 運動法 (伴奏つきダンス) | | |
| 第4号 | 1929 (S4). 12. 5 | | | 巻頭言 | 運動の真美 | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | 精神欄 | 碧巖録提唱 (二) | 水野虎溪 | 仏教・禪 | | |
| | | | 普勸生禪儀 (三) | 巖尾來尚 | 仏教・禪 | | |
| | | | 至誠鬼神を泣かしむ | 岩上行坡* | 仏教・禪 | | |
| | | 身体欄 | 典座教訓 講話 | 田中靈鑑* | 仏教・禪 | | |
| | | | 我国の今後の体育は如何に進むべきか | 藤村トヨ* | 体育論 | | |
| | | | 弓術と弓道 (四) | 長谷部筋泉 | 運動法 (武道) | | |
| | | 衛生欄 | 独逸体操の特徴 (三) | 藤村トヨ* | 体操 | | |
| | | | 体育の胸廓の形態に及ぼす影響に就て | 半田 勇* | 生理学 | | |
| | | | 衛生問答 冬の運動服に就て | 藤村トヨ*・ 垂水繁光 | 服装 | | |
| | | 遊戯 | 紅葉 | 不明 | 運動法 (伴奏つきダンス) | | |
| | | 7巻2号 | 1930 (S5). 2. 25 | 巻頭言 | 運動の要件 | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | | | 精神欄 | 碧巖録提唱 (四) | 水野虎溪 | 仏教・禪 |
| | | | | | 普勸生禪儀 (五) | 巖尾來尚 | 仏教・禪 |
| | | | | | 典座教訓 (二) | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| 身体欄 | 常住の大聖釈尊に触れよ | | | 岩上行坡* | 仏教・禪 | | |
| | 仏教概論 (五) | | | 岩堀榮秀 | 仏教・禪 | | |
| | 従容録講話 (五) | | | 安藤環中* | 仏教・禪 | | |
| 衛生欄 | 勉強の仕方 (二) | | | 森田正馬* | 心理学 | | |
| | 体操の目的及分類 (一) | | | 藤村トヨ* | 体操 | | |
| | 衣服の研究 (一) | | | 藤村トヨ* | 服装 | | |
| 音楽欄 | フレール ジャック | | | 四至本藤枝 | 音楽 (歌詞・楽譜) | | |
| 7巻3号 | 1930 (S5). 3. 22 | | | 巻頭言 | 研究は一步より | 藤村トヨ* | 研究法 |
| | | | | 精神欄 | 碧巖録提唱 (五) | 水野虎溪 | 仏教・禪 |
| | | | | | 典座教訓 (三) | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| | | | | | 仏教概論 (六) | 岩堀榮秀 | 仏教・禪 |
| | | 身体欄 | 勉強の仕方 (三) | 森田正馬* | 心理学 | | |
| | | | 体操の目的及分類 (二) | 藤村トヨ* | 体操 | | |
| | | | 弓術と弓道 (六) | 長谷部筋泉 | 運動法 (武道) | | |

| | | | | | |
|----------------|---------------|-----|---------------------------|----------------------|--------------|
| | | | 精力善用国民体操（改防式国民体操）を紹介す | 藤村トヨ* | 運動法（体操） |
| | | 衛生欄 | 体育の胸廓の形態に及ぼす影響に就て | 半田 勇* | 生理学 |
| 7巻4号 | 1930(S5).5.9 | 巻頭言 | 運動と態度 | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | 精神欄 | 碧巖録提唱（六） | 水野虎溪 | 仏教・禪 |
| | | | 普勸坐禅儀（六） | 巖尾来尚 | 仏教・禪 |
| | | 身体欄 | 人生観の種々相 | 森田正馬* | 心理学 |
| | | | 国民の体育向上の要件（一） | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | | 体操の目的及分類（三） | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | | 精力善用国民体操（改防式国民体操）を紹介す（二） | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | | 嘉納先生体育論抄録 | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | 遊戯 | The Spring Breeze. | 不明 | 運動法（伴奏つきダンス） |
| 7巻5号 | 1930(S5).6.20 | 巻頭言 | 活動能率と休息 | 藤村トヨ* | 健康論 |
| | | 精神欄 | 普勸坐禅儀（七） | 巖尾来尚 | 仏教・禪 |
| | | | 典座教訓 | 田中靈鑑* | 仏教・禪 |
| | | | 仏教概論（七） | 岩堀宗秀 | 仏教・禪 |
| | | 身体欄 | 注意は活動である（一） | 森田正馬* | 心理学 |
| | | | 将来の体育研究法について | 藤村トヨ* | 体育理論 |
| | | | 生理学講義（一） | 藤村校長*講述 土橋ふじの筆記 | 生理学 |
| | | | 漸く日本に体操連盟が組織された | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | | 独逸体操の特徴（五） | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | | 精力善用国民体操（改防式国民体操）を紹介す（三） | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | | 嘉納先生体育論抄録 | 藤村トヨ* | 体操 |
| | | 遊戯 | 春風 | 広島県三原女子師範学 校遊戯研究部 | 運動法（伴奏つきダンス） |
| 第9回極東オリンピック大会号 | 1930(S5).7.28 | 巻頭言 | 水泳は人を鋼鉄にす | 藤村トヨ* | 水泳 |
| | | | 夏は心身の鍛錬の時期 | 藤村トヨ* | 体育論 |
| | | | オリンピック大会に就きて（野口源三郎氏講演の一部） | 土橋*速記 | 極東オリンピック大会 |
| | | | 極東選手権大会の起源と略史 | 土橋ふじの* | 極東オリンピック大会 |
| | | | 第九回極東選手権競技大会の感想 | 佐々木等 | 極東オリンピック大会 |
| | | | 極東オリムピック大会雑録 | 笠島富美* | 極東オリンピック大会 |
| | | | 極東オリンピック大会感想 | 飯野きぬ* | 極東オリンピック大会 |
| | | | 水泳総論 | 加治千三郎 | 水泳 |
| | | | 競泳 | 鶴岡英吉 | 運動法（水泳） |

*は本校の教員、外部講師、生徒として確認できた人物（本校在籍者）

V 『健康の女性』の記事分類（全30冊分）

本研究で取り上げた『婦人と体育』および『健康の女性』には、論説、研究の報告、各種スポーツのルールや指導法の解説のほか、音体の教員・外部講師・在校生・卒業生らによる自由作文・雑感（近況報告）などが掲載されている。自由作文と雑感を除き、研究者や教育者らの日頃の研究・教育の成果とみなされる記事を一覧にしたものが表1である。

調査した機関誌30冊には、合計263件の論説・研究・解説に関する記事が存在した。記事の内訳を表2に示すと、総件数263件のうち音体の教員や講師、生徒による記事が151件（57%）確認できた。残りの43%の記事執筆者は、音体の教育方針に賛同し協力してくれた外部の講師や学生であったと考えられる。その中には、大正期から昭和初期（戦前）の日

本の教育・体育を牽引した体育家「大谷武一」の名も見られる。大谷が寄稿した第2巻6号の前号（第2巻第5号）には、その編集後記に「今後の本誌には現代体育界の一流の大家が稿をよせて後援して下さる事になりました。」¹⁰⁾と紹介されている。大谷武一が本校と日本女子体育協会を支援してくれていたことがわかる。

また、263件の記事のうち45件（17%）が仏教および禪に関する論説である。日本女子体育協会が健康の女性会と改称した1929年以降、『健康の女性』は藤村トヨが編輯兼発行者を務めるようになり、藤村トヨの教育思想の色彩がより強くなっていく。『健康の女性』の巻頭言には必ず藤村トヨの主張が掲載されるようになり、その他の記事は「精神欄」「身体欄」「衛生欄」「音楽欄」「遊戯」に区分される。そして「精神欄」は仏教および禪の論説で占められ、本校の修身

科担当教員や総持寺の僧侶などが毎号連載を続けるようになる。1928年以前よりも、仏教・禅関連の記事件数が明らかに増え、ここに精神教育により力点を置くようになった教育方針が窺える。これに呼応するように、「身体欄」には「国民体育」を主張する記事が多く見られるようになり、「衛生欄」では医学的視点から正しい服装や生活規範などに言及する記事が散見されるようになる。つまり、日本女子体育協会（1928年まで）と健康の女性会（1929年以降）とでは、『健康の女性』の記事の性格が「研究・実践の報告」から「精神を核とした教育論・体育論」の啓蒙へと変容していることがわかる。ここに、藤村トヨの積み上げた研究が独自の教育論へと収斂されていく軌跡が垣間見えるのである。

VI 『健康の女性』における「研究」の特徴

『健康の女性』（第2巻第5号～第5巻1号）には各号の巻頭部に目次が掲載されており、目次には「主張」「論説」「研究」「指導」という区分が示され、それぞれの区分に応じて記事の題目が列挙されている。その中で「研究」に位置づけられた記事を通覧すると、以下のようなことがわかる。

身体論や女子体育論などの新規性のある理論、体型や姿勢などに関する医学的な知見とその矯正法、筋肉の動きや形など運動生理学的な理論、外国人の著作（運動哲学、遊戯論）の翻訳など、学術的な根拠から論じられている記事が「研究」に位置づけられている。また、体操・陸上競技・ダンスなどの競技規則や施設・設備の設置方法など、運動実践に関わる技術や規定も「研究」とされている。つまり、体育やスポーツの実践・指導と、それによる効果を客観的・理論的に論述したものを研究と考えていたことがわかる。

加えて、藤村トヨがライフワークとしていた「健康の秘訣」や、それを導く根拠となる姿勢・歩行の理論、また仏教・禅に関する論考も「研究」に位置づけられた。

音体の複数の教員や講師をはじめ学校外からも東京高等師範学校教授、日本体育会体操学校主事な

どの寄稿が見られることから、投稿した人物たちは、本誌の発行意図や「研究」の意味を共通理解していたと考えられる。

なお、本誌の記事区分において「指導」に位置づけられた記事には、体操・陸上競技・球技・ダンスの運動法と指導法が数多く見られた。これら「指導」に区分された記事は、読者にとっては目新しく、すぐに学校等で実践できる実技指導法の情報であったと読み取ることができる。

表2 『婦人と体育』『健康の女性』（全30冊）に掲載された論説・研究・指導・解説に関する記事の執筆者および記事内容割合（総件数263）

| 記事内容および執筆者による分類 | 件数 | 割合（％） |
|-----------------|-----|-------|
| 本校在籍者による記事 | 151 | 57 |
| 運動法（実践）に関する記事 | 79 | 30 |
| 仏教・禅に関する記事 | 45 | 17 |

VII 結語

本研究では、本学に複製版として所蔵されている日本女子体育協会および健康の女性会発行の機関誌『婦人と体育』（1冊）と『健康の女性』（29冊）の記事を収集、分析し、計30冊の中で論じられた「研究」に関わる記事について明らかにした。その結果、以下のことがわかった。

本誌には、日本女子体育協会および健康の女性会の会長を務め、その組織が置かれていた私立東京女子体操音楽学校校長でもあった藤村トヨの研究姿勢や思想が色濃く反映されている。彼女の考える「研究」とは、結論を急ぐことなく地道に一つ一つの結果や事実を積み上げていく行為であり、身近な問題意識を大切に、科学的な根拠をもってその問いを探し求めることであった。この考え方は、音体の教員や外部講師にも共通に理解され、研究成果は全国に発信された。本誌に掲載された研究や論説は、音体の日々の教育の中で実践されるとともに、教育実践からまた新たな研究が生まれた。実践と研究が循環し、その成果が音体の教育理念の基盤を形成したと言える。

『婦人と体育』は、本学120年の歴史において最古の機関誌である。最古の研究の成果は、現在も本学の建学の精神の中に息づいていると言えよう。

本学は女子体育大学であり、前身は日本初の女子体育教員養成機関「私立東京女子体操学校」(1902年11月に「私立東京女子体操音楽学校」と改称)である。『婦人と体育』および『健康の女性』が「女子体育研究」に果たした歴史的意味についても注目し、改めて調査・分析する必要があるが、それは今後の課題とする。

付記

本研究は、藤坂由美子、及川佑介、掛水通子による共同研究である。藤坂は研究代表者として史料収集、史料解読、考察、本報告の執筆を担当した。及川は史料の記事分類のための基準設定を担当した。掛水は、分析対象とした『婦人と体育』および『健康の女性』掲載の全記事の確認と分析視点の検討、本報告の推敲を担当した。

謝辞

本研究は、令和3年度学長奨励研究「東京女子体育大学120年間の体育・スポーツに関する研究動向について」の研究成果の一部である。研究の機会を設けてくださいました金子一秀学長に心より謝意を表します。

注および引用・参考文献

注1) 本文中の引用箇所では、漢字は旧字体を常用漢字に改め、現代仮名づかいに表記を統一した。

注2) 表1の記事タイトルは、機関誌各号の目次を参考にしながら、記事本文の見出しを優先して記載した。

- 1) 日本女子体育協会(1926)健康の女性 第2巻第2号、裏表紙(「日本女子体育協会規約」より)
- 2) 上沼八郎(1972)近代日本女子体育史序説、不昧堂出版、pp.73-91

- 3) 掛水通子(2018)日本における女子体育教師史研究、大空社出版、pp.95-103
- 4) 藤村学園創立百周年記念記録等作成実行委員会編(2002)藤村学園100年のあゆみ、学校法人藤村学園、pp.49-53
- 5) 掛水通子ほか(2008)藤村トヨ研究:教育実践から本学建学の精神を探る、藤村学園東京女子体育大学女子体育研究所報 第2号、東京女子体育大学、pp.1-53
- 6) 宮崎美智恵(1981)女子体育の先覚者 藤村トヨについて、天理大学法131号、天理大学、pp.7-26
- 7) 健康の女性会(1929)健康の女性 第4号、東京女子体操音楽学校内健康の女性会、p.45(健康の女性会の沿革)
- 8) 健康の女性会(1930)健康の女性 第7巻第3号、私立東京女子体操音楽学校内健康の女性会、p.1(研究は一步より)
- 9) 健康の女性会(1929)健康の女性 第2号、東京女子体操音楽学校内健康の女性会、p.56(舌代)
- 10) 安藤環中 編輯兼発行(1926)健康の女性 第2巻第5号、私立東京女子体操音楽学校内日本女子体育協会、巻末(編輯室より)